

広島県知事・福山市長会談 議事要旨

(開催要領)

1 日 時：2022年(令和4年)9月1日(木)10:00~10:45

2 場 所：ウェブ会議

〔 広島県庁 北館2階第一会議室
福山市役所 本庁舎6階60会議室 〕

3 出席者：広島県知事 湯崎 英彦
福山市長 枝広 直幹

(意見交換項目)

議題1 ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた取組について

議題2 G7サミットにおける「世界バラ会議福山大会」や県内市町の魅力発信について

議題3 リスキリング推進企業応援プロジェクトについて

議題4 (仮称)子ども未来館に係る連携について

議題5 新型コロナウイルス感染症の拡大防止について

(概要)

<議題1：ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた取組について>

○知事

広島県におきましては、令和3年3月に、「みんなで挑戦 未来につながる 2050ひろしまネット・ゼロカーボン宣言」を行いました。それから、今年4月に、局内組織でありました「広島県地球環境対策推進会議」を、私をトップとした局の全庁的な横断組織に改組を致しまして、「省エネ」、「再エネ」、「カーボンサイクル」、「県率先垂範」の各部会を設け、ネット・ゼロカーボン社会の実現に向けた施策の検討を行っているところです。

それから、国の温室効果ガス削減目標の引き上げがありましたけれども、それに伴い、広島県としての削減目標を今年度中に定めるということを予定しております。

産業部門からの温暖化ガスの排出というのは、広島県では約7割、福山市では更に高く約9割を占めており、これは基幹産業が集積しているということの裏返しなのですが、福山市では特に、経済と環境の両立にご苦労されているのだと思っています。

一方で、リサイクル発電所であるとか、あるいは地域新電力会社という事業は地域の核となっていると認識しております。エネルギーの地産地消とか、レジリエンスの強化という観点からも他の市町のモデルケースとなると思っており、再生可能エネルギーの調達や、民生部門への供給拡大に取り組んでいただければありがたいと思っております。

なお、県と市町を繋ぐ会議として、「市町環境行政総合調整会議」を設けております。これまで、年1回程度開催しておりましたけれども、今年度は、かなり頻繁に開催してい

まして、8月末までに3回行っております。具体的には、国とか中経連を交えた脱炭素に関する制度の勉強会や、脱炭素に取り組む自治体を支援する民間企業、金融機関によるプレゼン、第1回脱炭素先行地域に採択された地域との意見交換などを実施しています。

今後は、再生可能エネルギーの促進区域の設定に関する考え方や、県内の小水力発電事業者が実施予定の事業の横展開ということを考えています。

今後も、市町のニーズを踏まえまして情報も共有して、環境と経済の好循環を図っていくように、産業がやはりこれによって弱くなるのではなくて発展していかなければいけませんので、そういうことを念頭に置きつつ、ネット・ゼロカーボンへの道筋というのを共に検討できればと思っております。私からは以上です。

●市長

まず、本題に入る前に、28日の福山城築城400年記念日には、ご多忙の中、わざわざお越しをいただきました。そして、来賓代表のご挨拶をいただきましたことに、まず心から御礼申し上げたいと思います。おかげさまで、27日も含めた2日間で9万人の人出がありました。福山城周辺にあれだけの市民や、市外からの方が集まった光景を見るのは、私初めてでして、本当に市民の心の支え、福山市の象徴が福山城であると改めて感じました。これから広島城も改装されると聞いておりますが、引き続き、歴史・伝統文化を大切にす県そして市であり続けたいと思っております。本当に暖かいメッセージをありがとうございました。

さて、先ほどネット・ゼロカーボン社会の実現に向けての知事の思いを伺いました。本市としても、しっかりと知事の思いに沿っていきたいと思います。今年度中に本市も環境基本計画を改定して、温室効果ガスの削減目標を見直すことにしています。県の方からのご指導やご助言もぜひお願いをしたいと思っております。

本市の状況でありますけれども、地域新電力会社「福山未来エナジー（株）」を設立いたしまして、備後圏域内の再生エネルギー由来の電源を調達して、それを公共施設に供給するという再エネの地産地消を実践しています。

現在、福山未来エナジーの調達電源の約8割が福山リサイクル発電所からの廃棄物発電によるものになっています。ただ、2024年度には新たなごみ処理施設が本格稼働しまして、発電能力も格段に高まります。その結果、廃棄物発電からの調達量がさらに2000万kwh以上増加することになりますので、現在の福山未来エナジーからの供給量を前提とすれば、概ね地元の再エネだけで賄うことができるということになります。そして、今後は備後圏域内から太陽光発電などの再エネ電源の調達を拡大しながら、更に市内あるいは近隣市町も含めた施設への再エネ由来の電力供給を進めていきたいと思っております。一方で、世界的な燃料価格高騰に伴い、福山未来エナジーの調達価格が大幅に上昇しています。それもあって、現在は更なる供給拡大を見合わせています。今後、民生部門への供給拡大にあたっては、電力の調達価格が安定するのを待ちながら検討していきたいと考えております。

脱炭素社会の実現に向けては、知事もおっしゃいましたが、市民の理解あるいは事業者の理解を取りまとめながら進めていく必要があると思いますので、県ともしっかりと連携していきたいと思っております。以上です。

○知事

ありがとうございます。今、このエネルギー情勢の中ですべての新電力が非常に困っていて、我々、逆に行政とか、県もそうですし、福山市もその他のところも場合によってあるかもしれないですけども、あるいは各市町が新電力を調達していたのが、ちょっと当てにならなくなって、大変な思いをしているという、予算を追加しなければならないという状況になっておりますけれども、ただ福山市はこの未来エナジーのおかげで、かなり安定した調達ができているという、そうは言っても、外からの供給分、調達分が、今大変な状況だと思えます。大きな方向性としては、やはり非常に良い方向に向いていらっしゃると思うので、この今のような状況は誰も予測できなかったということだと思いますので、こういったこともあるということを踏まえながら、今後進められると我々も期待しております。

<議題2：G7サミットにおける世界バラ会議福山大会や県内市町の魅力発信について>

●市長

原爆の投下にも負けず、めざましい復興を遂げて世界恒久平和を希求する広島が、来年のG7サミットの開催地に選ばれたことを県内市の首長として心からお喜び申し上げます。広島県をはじめ、広島市や経済界の熱心な誘致活動に心から敬意を表したいと思います。

世界に広島県の魅力を発信する絶好の機会ではありますが、本市にも100万本のばらをはじめ、日本遺産の鞆の浦や築城400年を迎えた福山城、日本一の生産量を誇るデニムなど様々な魅力的な資源があります。G7広島サミットを通じた広島県の魅力発信に我々も積極的に参加し協力をさせていただきたいと思えます。

福山市だけではなくて、我々備後圏域との結びつきを強めておりますけれども、我々の備後圏域の広域連携は、全国に先駆けた取組として総務省のモデルにもなっています。こういうことを踏まえまして、備後圏域の首長の集まりのときに、是非みんなで連携して、G7サミットで備後圏域の資源をアピールできないかっていうお話をいただきました。今、考えておりますのは、例えば、備後圏域に集積するデニム工場の見学、ファクトリーツアー、あるいは瀬戸内を巡るクルージングのエリアに使っていただくなどの提案をさせていただきたいと思っております。是非、広域や圏域といった視点での魅力の磨き上げ・発信をお願いしたいと思えます。

以上のように、G7サミットの成功に向けて、オール広島で取り組むことは2025年に開催される世界バラ会議福山大会の全県を挙げた取組にも繋がるのではないかと期待しております。本市におけるばらは、復興と平和のシンボルであります。そして、このば

らのまちづくりを進める過程で、ローズマインドという言葉も生まれました。本市で開催される世界バラ会議福山大会を通じて、我々も平和の大切さを世界にアピールしたいと考えています。2025年の福山大会の成功に向けて、知事のご理解とリーダーシップをお願いしたいと思います。

そのために、まずはG7サミットの機会を捉えて、この世界バラ会議福山大会をアピールできないかと考えています。具体的な提案とすれば、福山のばらの花を会場などの飾り付けにぜひ使っていただきたい。首脳会談あるいはバイ（二国間）の会談などの場を和ませる飾り付けに使っていただきたい。また、配偶者プログラムも恐らく設定されると思いますが、その際に平和のシンボルであります折り紙を使ったばら、折りばらと言っていますが、例えば市内の中高校生と一緒に折りばらの体験をしていただく、中高生が教えて差し上げるといった機会も提案をさせていただきたいと思います。その他にもいろいろと温めておりますので、是非ご理解いただければと思います。以上です。

○知事

ありがとうございます。

広島サミットが決まりまして、最近色々なところで広島サミットという言葉が流れて、注目が集まっているのかなと思ってはいますが、やはりG7というのは、広島の魅力だとかあるいはブランドイメージを発信する絶好の機会なのだろうと思っています。広島は色々良いものがあるわけですが、例えば、広島の発展を支えてきた活力溢れる産業だとか、これは備後地域にももちろんたくさんあるわけですが、豊かな自然とか、あるいは多彩で美味しい山海の食資産とかですね、歴史が紡いできた文化や暮らし、これもまた福山にもたくさんありますけれども、先人たちが築き上げてきた魅力があると思うのです。こういった魅力を世界に発信して、国内はもちろんですが、世界各国からも注目を集めていくと、広島を訪ねたいとか、広島に行きたいとか、あるいは広島に住んでみたい、みたいなそういう契機になるといいなと思っています。

具体的にはですね、地元の食材だとか産品とか、あるいは色々なプログラムもあると思いますので、そういったものの訪問先については、まさに全県的に行うために、県民会議という形で設定をしておりますので、その事務局で情報を集約して行って、秋ごろに外務省に提案をしていこうと考えています。

集約した情報を外務省へ提案していく、あるいは、サミットに先立って県民会議で魅力発信をやっていくと思うのですが、そういったことをする上で、この広島の魅力だとか強みを、ともすれば要素別とか断片的とか、そういう風になりがちなので、そうではなくて、やはり素晴らしいものがあるとして、その背景だとか今日までの歴史的なものだとか、あるいはその魅力がどんな価値をもたらしているのかとか、そういうストーリー性とか、最近の言葉でいうと、「ナラティブ」とかよく言われますけれども、そういうナラティブを持って発信していくということが重要だと思っています。

それを整理する際には、広域の観点だとか、あるいは圏域の観点も非常に重要な視点

でありますので、しっかりと検討していきたいと思えます。

それから、世界バラ会議は、福山市が非常に力を入れて準備をされておられまして、我々も大きく期待しているものであります。

平和がもたらす意義だとか大切さというのを世界に訴えていくという意味でも、特に今回のG7と共通しているところがあるかなと思っています。

今回のサミットが世界バラ会議の盛り上げ、機運醸成につながっていくよう、県民会議の枠組みの中で、福山市と連携をしながら、サミットの思い出が福山市民の心に残るような企画も検討していきたいという風に思っていますし、今ご提案があったような、ばらの会場の飾りつけとか、折りばらといった演出についても、この平和に関するナラティブ、ストーリーを具体化するコンテンツの一環として、外務省への提案とか県民会議の取組において活かしていきたいという風に思っています。

こうした取組を通じて、広島サミットに参加する各国の首脳と関係者といった、たくさん訪問者があるわけですが、さらにはお迎えする市民、県民にとって、「広島に来てよかった」と、「広島で開催されてよかった」という風に思っていたきたいと思っております。一人でも多くの方に広島ファンになっていただけるよう、官民一体となった「オール広島」で着実に準備を進めていきたいと思っております。

また、今年の3月に、広島の企業とか団体とか、市町の皆様とディスカッションいたしまして、ブランドステートメントというものを取りまとめました。これは「ひろしまの見られたい姿」というものですけれども、内容としては「ひろしまが誇る豊かで穏やかな風土、平和への想いと行動力は、すべての人へ、明日へ向かうエネルギーをもたらします。」ということになっておりまして、これをコアバリューと呼んでいます。ひろしまは「元気あふれるところ」、「美味しさの宝庫」、「暮らしやすさを創る」という3つのストーリーあるいはナラティブで構成しています。

平和を願う市民が1000本のばらの植栽をしたというところから始まっているこの福山のばらの取組である“ローズマインド”思いやり・優しさ・助け合いの心、その“ローズマインド”と、先ほど申し上げた「ひろしまの見られたい姿」、広島のブランドステートメントのなかで掲げている“平和への想いと行動力”というのは、込めた想いというのは共通していると思っております。

県と市で、協働しまして県民の誇り、それから国内外からのいわゆるレピュテーション（評価・評判）を高め、選ばれ続ける、より良い未来のひろしまというのを一緒に創っていただけらなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

●市長

ありがとうございました。広島大会の開催が決まってから、そんなに時間は経っていませんが、今の知事のお話からも、この短期間で広島サミットのイメージづくりが着実に進んでいると感じて、とても心強く感じました。おっしゃる通り、重なり合う部分が非常に多いG7広島サミットと世界バラ会議福山大会ですので、我々もぜひ積極的に関わる機会をいただきたいと思えます。

ちょうどその頃は福山市最大の祭りであるばら祭りが行われています。関係者一同、広島に乗り込んででもG7サミットを盛り上げる、そんな思いを持っておりますので、よろしくお願いたします。以上です。

<議題3：リスキリング推進企業応援プロジェクトについて>

○知事

ご承知の通り、いまデジタル化が急速に進んでおりまして、経営環境も変わってきているところだと思います。県内企業がデジタル技術を活用して、生産性の向上であるとか、あるいは新しい付加価値をつくっていくとか、こういうことを通じて成長分野での競争力の強化というものを実現することが重要だと、また、同時に成長分野で成長していくというためにも、労働移動の円滑化ということも重要と考えておりまして、こういったことに取り組むために、県では「リスキリング推進企業応援プロジェクト」というものを今年の4月から始めています。

具体的には、「デジタル基礎知識習得支援」、「リスキリングの機運醸成」、「円滑な労働移動の実現に向けた対応策の検討」という3つの柱でプロジェクトを進めているところです。

「デジタル基礎知識習得支援」では、企業が従業員にデジタル基礎知識を習得してもらうために、試験対策講座の受講料や受験料の一部を補助する「ITパスポート取得支援補助金」というのを4月から始めています。要するに、「ITパスポート」を取るというものを色々助成をしますということです。

それから「リスキリングの機運醸成」では、機運醸成に向けまして、リスキリングを推進する企業がその中身をPRできるように「広島県リスキリング推進宣言制度」というものも4月から創設しています。

このほか、経営者や人事担当者には、具体的な取組事例を使って、リスキリングの概念だとか必要性に対する理解を深めるための機運醸成セミナーを6月7日に開催いたしました。その他、リスキリングの実践方法を検討する1期3か月の研修プログラムがありますが、これを7月以降、広島市で2回、福山市で1回開催をすることとしております。

10月から福山市で開催する研修プログラムでは、福山市にもご後援いただきまして、会場の選定でもご協力いただいたところをございまして、ご協力に感謝を申し上げたいと思います。

それから「円滑な労働移動の実現に向けた対応策の検討」というところでは、公労使と専門家による協議会を4月25日に設置をいたしまして、今後習得が必要となるスキルがどういうものが必要なのかということの整理をしたり、働きながら学ぶ労働環境だとか雇用管理のあり方、あるいは労働市場の流動化を踏まえた社会システムのあり方などにつきまして議論を行っておりまして、来年の7月を目途にリスキリングの取組指針、そして円滑な労働移動が可能な社会の実現に向けたロードマップを策定するという予定にしております。

今申し上げた「ITパスポート取得支援補助金」、「経営者を対象とした研修」、そして

「広島県リスクリング推進宣言制度」につきまして、その事業者の皆様へ周知をするのをご協力いただけると大変ありがたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●市長

ありがとうございました。リスクリングを切り口に、デジタル技術を活用して生産性向上や競争力強化につなげていくという広島県の方針は本市としても共感したいと思えます。県と歩調を合わせて、リスクリング人材が市内の幅広い分野で活躍する姿を我々もイメージしながら、取組を進めていきたいと思えます。そうした観点から、最後に知事からありました3点である研修プログラム、補助制度、推進宣言制度を本市の産業支援機関を通じて、しっかり事業者へ周知をしていきたいと思えます。それに関連して、リスクリング研修プログラムを本市でも開催していただけるというお話でした。心から感謝を申し上げたいと思えます。

企業活動のためには、生産性の向上や新分野開拓などの取組が欠かすことができず、その基盤となるデジタル化への対応が求められていますけれども、我々が課題視しているのは、小規模な事業者ほどデジタル化の関心がどうしても低いということであります。そのため、事業者のレベルに応じた情報提供の場を我々としても設けております。びんごデジタルラボを昨年度から開設し、先行事例や成功事例、デジタル化のメリットを周知するという取組を進めています。また、ものづくり大学という取組が昔から本市にありますが、そこでは専門講座を開催し、スキルアップにつなげる努力をしています。

今後もこうした本市の取組を進めるにあたって、県内の優良事例の紹介を是非お願いできれば、より取組のメリットを事業者へ伝えることができると思っています。何卒よろしくお願い申し上げます。

○知事

県におきましては、県内のあらゆる主体がそれぞれの取組段階に応じてDXを実践していくための活動体である「広島県DX推進コミュニティ」におきまして、令和3年度から県内企業のDXの好事例をもとに、取組姿勢それから実践のヒントを学ぶ「DX事例研究会」や、県内でDXを実践している方へのインタビュー記事をHPで発信をするといった、DXの実践に向けた機運醸成を行っています。

このほかにも、AI・IOTを活用した多様な実証実験を行える環境としまして、平成30年に「ひろしまサンドボックス推進協議会」というのを立ち上げて、AI・IOT等をテーマとした様々な実証プロジェクトを企業等と推進しておりまして、一部プロジェクトについては、県内で実装段階に移るといったような取組になっております。

こういった活動で先進事例の蓄積がありますので、福山市のテーマに合わせた優良事例も紹介をさせていただければと思っております。

●市長

ありがとうございました。私の方からはデジタル化という観点からのお願いをさせていただいたわけですが、なかなかデジタル社会をイメージしづらいという悩みを私自身も持っています。おそらく、デジタル社会をわかりやすく話すことができる人はそんなに多くないと実は思っています。

そこで、私たちは行政のデジタル化をまずは強力に先行して進めて、行政手続きをデジタル化することによって、産業のデジタル化にじわじわと広げていくような道筋も一つにはあろうかと思っています。そういう意味では、行政職員の人材育成というものが急務だと思っています。もちろん、短期的には外部人材によるデジタル化の指導でそれを補いながら、中長期的に内部人材を育成するということになるんだと思いますが、是非そういった内部人材の育成についての研修あるいは指導を県には旗を振っていただきたいなと思っています。ちょっと本題から逸れるかもしれませんが、よろしく願います。

○知事

それについては、市町と行政におけるデジタル人材の人材育成について、あるいは人材確保については協議をさせていただいておまして、方向としては、共同して人材育成を図っていこうと。福山市は比較的大きな職員規模がありますけれども、小さな市や町ではなかなかデジタルの専任の専門の人材を確保するのが難しいということがありまして、みんなでプールして育成をしていこうと。プールするのはどういうことかといいますと、何市とか何町ならそこだけで育成するのではなくて、県全体で共有のプールにして色々な市や町で、色々なレベルのポジション、色々なデジタル環境といってもいろんな業務があるので、色々な業務に就きながら人材育成を図ると。場合によっては、民間との出入りをそこの中である程度自由にできるようにする、というようなことを今進めようとしておまして、そこは広島市とか福山市など大きなところが参画をしていただけますと、よりプールが安定的に運営できるので、是非またそういった観点でもご検討いただけるとありがたいなと思います。これはまた事務的にも色々議論させて頂ければと思います。

<議題4：(仮称)子ども未来館に係る連携について>

●市長

県の東部や備後圏域においては、総合的に科学に触れるあるいは学ぶことができる科学館がありません。このため、2020年度から未来を切り開く人材の育成に繋がる子ども未来館の設置に向けた検討を進めて参りました。今年6月には、県からもご意見をいただきながら、「(仮称)子ども未来館基本構想」を策定いたしました。

本市に設置をする子ども未来館は、県東部そして備後圏域の子どもたちを対象に、最新の科学やテクノロジーに触れて楽しく学ぶ、そして成長するという広域的な教育施設

に是非していきたい。そして、そのことは人を呼び込むあるいは県東部のにぎわいの創出にも繋がりますし、人材の定着にも繋がる、そんな思いを持っています。これまでも広島県にご協力をいただき、感謝申し上げます。

そして、今年度はその基本構想を一步進めて、いよいよこの9月から基本計画の取りまとめのための議論を開始する予定にしています。基本計画の中には、施設の規模や導入する設備、展示コンテンツ、整備運営方式など、様々な観点からしっかりと議論をして参ります。その過程で引き続き、県とも密接に連携をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○知事

ありがとうございます。福山市が今検討されておられます「子ども未来館」ですが、基本構想が先般打ち出されまして、大きな方向性が示されたところかなと思っております。これから具体的な機能だとか、あるいは、施設の規模を検討されるということになるのだと思いますが、子どもたちが最新のデジタル技術にも触れながら主体的に学ぶ場になると、それから、先進的なデジタル技術を活用した地域住民だとか市内外の企業や大学等にも開かれた交流機能も持つようになるということで、備後圏域の拠点性の向上に資する施設になるよう期待しております。引き続き、基本計画策定にあたって、しっかりと連携させていただきたいと思っております。

県としては、デジタルリテラシーの向上、あるいはデジタル技術を上手く使って、子どもたちの主体的な学びを促すといったようなこと、これは大事だと思っております。これを我々は「学びの変革」と呼んでおりますけれども、そういうことにも繋がるのかなと思っております。

一方で、子ども未来館には、先進的なデジタル技術の導入が想定されるということで、最新の施設だとか、設備のイニシャルのコストはそれなりにかかってくるだろうなと。それから、デジタル技術というのは、大変なのは、ドッグイヤーで変わっていくので、1年が7年だと、2年経つと14年だと、5年経つと35年経っちゃうという、どんどん変化をしていくので、中長期的にその機能や価値がしっかりと更新をしていかなければいけない。そのためには、効果的なあるいは効率的な運営計画を立てて、対応していくことが必要になっていくと思っております。そういったことがないと、施設の魅力というのが、失われていくというか、もう誰も行かないという、そんなことになってしまいかねないので、そういった点も踏まえながら、今後検討いただければと思っております。なかなか大変なことだと思いますけれども。

●市長

ありがとうございます。今の知事のお話のように、主体的な学びが重要だということ、それから機能や価値が技術の進歩についていく必要がある。これはとても重要な視点だと思っております。先般28日に福山城天守内の博物館をご視察いただきましたけども、我々は今回の大規模リニューアルにあたって、従来の展示型の博物館を一掃しよ

う、そして体験型にしていこう、さらにコンテンツも更新できるように機動的なものにしていこう、こういうことを全面的に考えながら博物館を改修しました。いかがだったでしょうか。

○知事

素晴らしかったです。ソフト部分はかなり大きいので、これは例えば映像を変えるだとか、プログラムを変えることができるなというところで、市長の狙いが良く分かりました。

●市長

我々も全国の子ども館、未来館、科学館を視察していますけれども、やはり設置型そしてそれが老朽化してしまっているという姿を目の当たりにします。是非とも今回設置する子ども未来館は体験型、そしてコンテンツがどんどん変わっていく、そんなものにしていきたいと、知事のお話を伺いまして、改めて思いました。今後ともよろしく願います。以上です。

<議題5：新型コロナウイルス感染症の拡大防止について>

○知事

現在の感染状況ですが、今のところ県のシミュレーションに沿った推移をしておりますが、感染者数としては非常に高いレベルになっているという状況です。

オミクロンがずっと流行っておりますけれども、職場で働く世代が感染し、学校・幼稚園・保育所といったところでの拡大、そしてそれが家庭内に持ち込まれる。それが家族で拡がるといったパターンが多くなっているかなと思います。

いま「BA.5系統」でも、そういった傾向は顕著でありまして、感染力が強いということとも相まって、ご承知のとおり、8千人台の新規報告者数に至るといような爆発的な拡大となっております。

入院患者も過去最多を更新しておりまして、8月12日には「医療非常事態警報」を出して、県民の皆様には「感染リスクの高い行動の抑制」や、「限られた医療資源の適正利用」していただくといったことを呼びかけております。病床フェーズも最終段階である緊急フェーズⅡに引き上げました。それから8月26日には、診療・検査医療機関への受診が集中するというのを緩和するために、陽性者登録センターというのを開設しました。

今回は県民の皆様には行動制限の要請をしないということで、それは裏返しで言うと、医療への負荷が増えるというか、そこで受け止めると、そういうポリシーというか戦略というか、になっているのですが、福山市をはじめとして県内の入院受入機関、それから診療検査機関など、非常に多くの保健医療関係者のご尽力をいただきまして、県民の命と健康が守られて、社会経済活動を維持することができると思っております。改めて感謝を申し上げます。

●市長

ありがとうございました。福山市では、2020年4月に最初の陽性者が確認されて以来、長い戦いが続いているわけですが、これは私だけでなく県内市町の首長もそうですが、知事のリーダーシップのもとで一体となってコロナ対策に邁進してきました。知事の発するメッセージはデータに基づき、根拠を持って発信をさせていただいておりますので、説得力があると我々は評価をしています。これからも一丸となって、この新型コロナウイルスに対応していきたいと思っています。

この中で、広島県には福山市のPCRセンターの時間延長、そして自宅療養者の支援のためのオンライン診療センターの毎日の開設、そして軽症者に対してショートメールで健康観察を行う、そういうシステム導入に取り組んでいただきました。また、以前からお願いをしています東部臨時医療施設の開設も実現していただきました。感謝を申し上げたいと思います。

また、医療機関の皆さん方には輪番病院の追加など、積極的な救急患者の受け入れや必要な検査や治療に取り組んでいただきました。必要な患者さんに必要な医療を提供することができた、これがこれまでの福山市でありました。改めて、この場をお借りしまして医療機関の皆様方にも感謝を申し上げたいと思います。以上です。

○知事

市長のおっしゃるとおりで、今回医療機関の皆様のがんばりで、我々は行動制限することなく、活動できております。一方で新規感染者は非常に高い水準にありますので、これ以上負荷をかけるというのはなかなか厳しいものがあります。検査体制の維持だとかあるいは高齢者施設に対する医療支援といった非常に重要な対策について、福山市、これは保健所設置市でありますので、連携してしっかりと取り組んでいきたいと思しますので、引き続きご協力をお願いいたします。

●市長

ありがとうございます。今年の冬はインフルエンザの流行も心配されていると聞いておりました、そうしたことも念頭に置いて安定した医療提供体制が確保されないといけない、こういう局面にあると思います。そのためにも、新型コロナ対応には余力をできるだけ持ちつつ、そうした冬の対応にも努めていきたいと思っております。どうか引き続き、よろしく願いいたします。以上です。